

---

# 偉福な血

燐火

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

偉福な血

### 【ZPDF】

Z0804W

### 【作者名】

燐火

### 【あらすじ】

そのとき、わたしは愚かしいほどに偉福を感じていたの。  
わたし以上に偉せを感じているものなど、この世界にはないと信じるほどに。

「すき」

微笑みながら告げると組み敷かれた彼女はただ無表情のままでわたしを見上げ、それでも両手を伸ばし、わたしの頬に触れた。セーラー服から伸びたすらりとした腕は白く、まるで砂糖菓子のように愛らしい。わたしの頬を包み込む指先は、ほのかに暖かかった。

柔らかい感触がひたすら嬉しくて、こころが踊った。

もしもわたしに尻尾があつたらそれは絶え間なくぱたぱたと揺れていたに違いない。

鳥のように翼を持っていたならその場をぐるぐると飛び回っていたでしょう。

そのとき、わたしは愚かしいほどに幸福感を感じていたの。わたし以上に幸せを感じているものなど、この世界にはないと信じるほどだ。

「すきなの。あなたがすきだったのよ、ずっと……」

幾度、囁いてもその想いは枯れることを知らない。きっと声が枯れて喉が潰れても、わたしはこの彼女への想いだけは外の世界に伝えることができる。そんな根拠もない自信がある。

ふたつの障害に阻まれた恋。

ひとつはわたしたちが同じ性別を持っているということ。  
そしてもうひとつは、彼女に恋人がいたということ。それはもちろん男の。

名前は覚えていない。興味がない。彼はわたしの言葉と身体に呆気なく陥落したから。

彼女というものが在りながら！

こんなに美しく素晴らしい宝石よりもわたしを選ぶなんて、なんて浅はかなんだろう。

そしてふたつとも食べてしまおうなんて、ひどく狡猾なひと。

「……目が腫れてる。泣いたの？ あんなやつのために

一瞬だけ、彼女の瞳が動いた。澄んだ瞳には鏡みたいにわたしの姿が鮮明に映る。黒目に夕暮れが落ち、赤色を映し出すのがとても美しかった。

この瞳に薄い水の膜が張られ、それがじわりとこぼれ落ちる様を想像した。

もしかすると流れ落ちる涙も、微かな赤の色をしているのかもしない。

「……もつたいない」

あんなやつのために泣くなんて。

ねえ、あんなのよりも、わたしを選んで。こんなにも好きなの。  
大好きなの。

彼女はなにも言わない。ひとつも反抗をしない。柔らかく頬に指先が手に触れている。

それはもう、許されているのと同じじゃないかしら？  
思いきつてくちづけを落とすと、身体を屈めて それでも  
ぴくりとも動かない彼女に、疑問を抱く。

彼女は人形のように従順。もう息をしていないのではと、疑つてしまつほど。

「

「……なに？」 もういちど、言つて？」

「……い

言葉の意味を考えるよりも先に、鼓膜に響いたその声に感嘆した。  
なにかの感情に震える、細いけれど、力強い芯を持つ声。  
それはきっと彼女のまっすぐな意志というものの。

「あたしはおまえがきらこだ……

頬に触れていた手指の優しさが、牙を剥ぐ。まるでそれはいばら  
のようにわたしの頬を裂いた。

ぎり、と食い込んだ爪が皮膚のしたから血液を引きずり出す。

「……きらい？」

「だいきらいだ」

それでもわたしは好きだもの。ビリijoもなく欲しいの、あなたのすべてが。告げると、彼女は薄赤の視線に侮蔑とかそういう、ありつたけのマイナスの感情を込めて、わたしを見上げた。唇は震えていた。怖いのかしら。それともそれは怒り？

頬にはまだ爪が深く刺さっている。

やがてわたしの頬を流れ落ちた赤が、彼女の唇にぼたりと落ちた。まるでキスのように。

なんて偉福な血なんだろうと、わたしはぼんやりとそれを羨んだ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0804w/>

---

倖福な血

2011年10月9日11時51分発行